

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和 7 年度 技術情報第 16 号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

普通期水稻のトビイロウンカについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病虫害防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



令和 7 年度 技術情報第 16 号

9 月上旬の普通期水稻のほ場調査で、トビイロウンカの短翅型雌成虫の発生しているほ場が確認されています。10 月中旬以降に収穫する中～晩生品種については、被害を生じる恐れがあります。ほ場をよく見回り、発生が多い場合は下記 4 を参考に防除を行ってください。

1 対象病虫害 トビイロウンカ

2 対象作物 普通期水稻（10 月中旬以降に収穫する中～晩生品種）

3 発生状況等

- （1）9 月 1～4 日のほ場調査（28 地点 56 ほ場）では、トビイロウンカの発生が認められ、発生面積率は 28%（平年 56%）と平年より低く、発生程度も低いものの、増殖率の非常に高い短翅型雌成虫の発生が各地域で確認されている（表 1）。
- （2）今後も気温が高く、発生に好適な条件が続くことから発生は増加すると予想される。

4 防除対策及び防除上注意すべき事項

- （1）10 月中旬以降に収穫する「あきほなみ」、「あきのそら」などの中～晩生品種では、次世代の幼虫が多発生した場合、被害を生じる恐れがある。
- （2）次世代の幼虫の防除時期は 9 月 29 日から 10 月 4 日頃で（図 1）、防除する場合は、表 2 を参考に農薬を選定した上で、ラベルに記載の収穫までの日数など登録内容を遵守する。
- （3）トビイロウンカは、稲の株元に生息しているので、粉剤や液剤で防除する場合は、農薬が株元に十分届くよう散布する。
- （4）発生はほ場間差が大きく、ほ場内の分布にも局在性があるので、ほ場の外から観察するのではなく、ほ場内に入ってほ場全体を確認する。

5 参考データ

表1 トビイロウンカの発生状況（令和7年9月1日～4日調査）

地域 ^{注1)}	調査ほ場(筆)	程度別発生面積率(%) ^{注2)}					発生面積率(%) ^{注3)}		備考
		甚	多	中	少	無	本年	平年 ^{注4)}	
南薩	10	0	0	0	30	70	30	64	1ほ場で短翅型雌成虫を確認
北薩平坦	20	0	0	0	35	65	35	52	2ほ場で短翅型雌成虫を確認
北薩山間	20	0	0	0	15	85	15	56	
大隅	6	0	0	0	33	67	33	62	1ほ場で短翅型雌成虫を確認
県全体 ^{注2)}	56	0	0	0	28	72	28	56	

注1) 地域別の調査地点は下記のとおり。なお、1地点につき2ほ場を調査した。

南薩：南九州市知覧・川辺, いちき串木野, 日置市伊集院

北薩平坦：阿久根, 出水市高尾野, 出水市, 薩摩川内市宮崎・高江・入来, 霧島市国分・隼人, 始良市蒲生・始良

北薩山間：薩摩川内市祁答院, 伊佐市菱刈・大口, さつま町, 湧水町

大隅：大隅, 末吉, 鹿屋

注2) 発生程度基準は下記のとおり。

甚：虫見板による株当たり払い落とし虫数が51以上

多：" 21～50

中：" 6～20

少：" 1～5

無：" 0

注3) 県全体の発生面積率は、地域の栽培面積を勘案して算出した。

注4) 平年は、平成27年～令和6年までの10年間の平均。

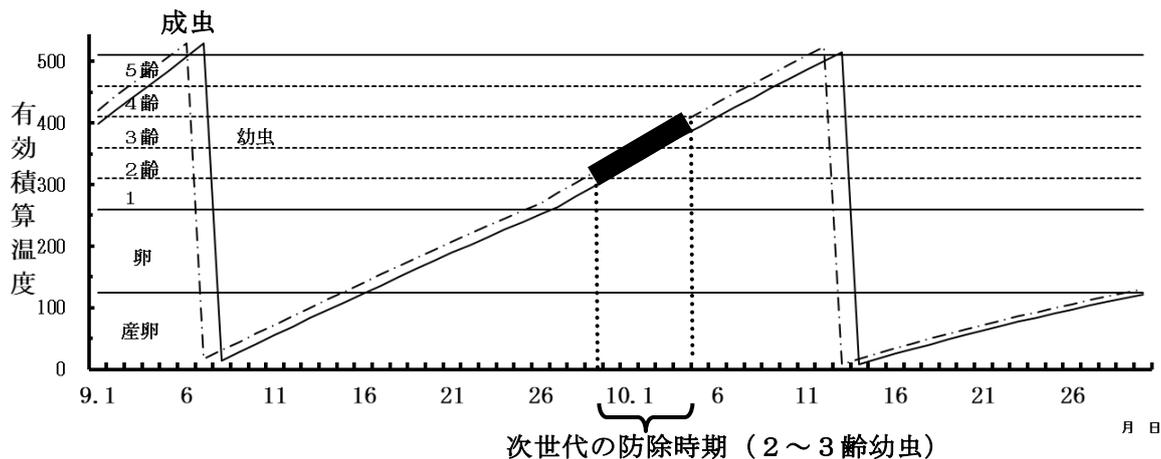


図1 9月上旬のトビイロウンカ短翅型雌成虫に由来する有効積算温度による発生予測

注) 図中のぬりつぶし部分が防除適期を示す。なお、気温は、加世田のアメダスポイントデータを利用して
いるため、気温の低い地域では上図の予測より2～4日程度遅くなる。

表2 トビイロウンカの本田施用剤（令和7年9月4日現在）

農薬名	使用時期	有効成分
エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	スルホキサフロル
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	スルホキサフロル
エミリアフロアブル	収穫7日前まで	フルピリミン
オーケストラフロアブル	収穫7日前まで	ベンズピリモキサン
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで	エトフェンプロックス